



# 県民だより



## 第5号

●昭和56年7月10日発行 ●編集・発行／栃木県企画部広報課 〒320 宇都宮市埴田1丁目1番20号 ☎0286-23-2159  
●県人口／1,799,906人 男889,811人 女910,095人 ●世帯数495,014世帯(昭和56年6月1日現在)

# ふれあいささえあう社会

企業の第1人者も増えている。



農園作業に汗を流す。(氏家コロニー)



手話のボランティアに寄せる期待も大きい。

# あなたにできることから

## 第33回 全国植樹祭

(昭和57年5月)

うえる緑 のびる緑 まもる緑



# 社会参加

## しやすい環境を

### 今年は「国際障害者年」です

みなさまもご存じのように、今年は国際障害者年です。これはそのメインテーマにもつたわられているように「完全参加と平等」の実現をめざしています。障害をもつ人も、そうでない人も、同じように理解し合いながら、生活できる社会を育てることがその主な目標です。これは、県民のだけれども、生きがいを求めながら、幸せな生活を送ることができるよう、社会福祉の充実を図っている県の基本目標と全く同じ考えです。



### ささえあう社会を

いま、本県には約六万六千人の障害をもつ人たちがいます。しかし、障害をもつ人たちの大半は、そうした障害を克服して、社会で活躍していますが、反面その障害のために働く意志をもちながら、働けないという人や、日常生活さえも容易でない人が多いこともまた事実です。

ところで、私たちは障害ということ、私自身にはあまり関係のない、特別な問題として考えがちではないでしょうか。しかし、私たちは、ふとしたことで交通事故や労働災害、病気などによって、ハンディキャップを負わされなくても限りません。障害というものは、障害をもつ人たちの問題として考えるのでは

### 自立をささえる

障害をもつ人たちが、ハンディキャップを乗り越え、自立していく。それをささえるものとして、まず相談活動があります。障害をもつ人たちが、更生していくうえでいろいろな問題については、更生相談所や各地区にいる相談員が、これにあたっています。また各地域や家庭に医師などを派遣して相談や指導を行う巡回相談や訪問診査を行っています。

障害の程度が重く、日ごろの生活にいろいろと支障のある人で、家族が介護するにも困難な家庭については、代って介護を行う家庭奉仕員の派遣、または一時家族に代って世話をする介護人の派遣があり、これは市町村が県の援助



車いすバスケットの仲間たち。(県障害者リハビリセンター)

### 雇用を促進する

障害をもつ人たちが、それぞれの職業に就くことにより、働く喜びと収入を得て、家庭を築き、社会活動に参加していくことが最も望ましい姿であり、これは非常に重要な問題です。

そうした社会を広めていくために、企業は雇用労働者の一・五%以上(従業員六十七人に一人以上)の割合の障害をもつ人たちの雇用しなければならぬと法律で義務づけられています。このためそうした人々を雇用する企業が多くなっていますが、全体的にはまだまだの感があります。

県ではいま社団法人「栃木県心身障害者雇用促進協会」と協力して県内の事業主へ、雇用を促進するための啓発と援助の事業をすすめています。まず県内十二の公共職業安定所で、専門の職員が職業相談や就職指導、職業あつせんなどに積極的に取り組んでいるほか、栃木心身障害者職業センターでは、どのような仕事ができるか、どんな職業に向くかなど、能力や適性についての指導も行っています。



小山市児童公園の車いす用スロープ

### 社会参加をすすめる

「社会への参加」は、国際障害者年のテーマでもあります。それを促進するものとして、まず障害者社会参加促進事業があげられます。たとえばボランティアの育成、教養講座の開設、社会適応訓練の実施など、障害をもつ人たちの自主的活動を援助しているほか、身体障害者スポーツの振興などもその一つです。

### 家庭的な施設 家コロニー



障害者福祉施設がありますが、現在、馬頭町に障害者更生保養センター(仮称)の整備を進めており、また障害者福祉都市推進事業を国の援助を得て、すでに宇都宮市と足利市で事業を完了したほか、現在、小山市を対象に進めています。さらに障害者福祉のまちづくりを県単事業として実施することになり、本年度は大田原、矢板、日光、栃木、真岡の各市を対象に進めています。このように、県はいま、障害をもつ人たちが、積極的に社会へ参加することができるような生活環境の整備に取り組んでいます。今後はさらに、街ぐるみで援助する雰囲気などを、地域社会の中に育てていくことが大きな課題となっています。

**県北県民センター**

●県北県民センターは、大田原市内の県那須庁舎一階、玄関を入ってすぐ左手です。ここは、県北十六市町村の住民の声を県政に反映させる窓口として設けられてから六年目。県の仕事に対する「要望はもとに種々の便宜を図るようになり、県と地域住民との接点として

相談にはきめ細かな配慮が……



古峯神社の境内。

◇：鹿沼市内から北西へおよそ二十km、大芦川に沿って進むと、文字通り見上げるような大鳥居が目にとまる。これが古峯神社一の鳥居だ。これをくぐると、ひとしお心を洗われた感じがするからふしぎだ。さらに歩を進めると、静まり返った「聖域」古峯神社への参道に至る。ここにはさしもの交通騒音もとどかない。◇：古峯神社はおよそ千三百年前、隼人という人によって開かれたと伝えられており、火防の神・五穀豊穰などの守護神として信仰が厚く、講組織をもち、全国から集まる信者はおよそ二百万人を数えるといわれている。

### 四季折りに美しい

#### 聖域 古峯ヶ原

●鹿沼市●

◇：また社域内には、信者約千人が宿泊できる参籠室があり、大小数々の天狗の面が各部屋にあつて厄除けとして崇められている。とくに顔の長さ一七六cm、重さ一三四kgの大天狗面は、この神社の顔の一つでもある。

◇：同神社から西へ約四kmほどして、横根山に包まれた古峯ヶ原が広々と大自然を誇っている。ここに立つと、白雲たなびく日光連山や、遠く富士の霊峰をのぞむことができ、さらに四季折りに衣替えるさまは、まさに訪れるものをして、別天地を思わせるほど。



古峯神社の境内。

◇：また、前日光県立自然公園に指定されているこの地は、ハイキングコースも多く、家族連れなどに親しまれており、古峯神社の北東、石裂山の中腹には今から約千二百年前に勝道上人が開いたと伝えられる加蘇山神社があつて、古くから信仰を集めている。

# とちぎ路スケッチ



### 緑濃い伝説の里

#### 朝日堂と夕日堂

●茂木町●

◇：「仏の山峠」は、茂木町と茨城県笠間市の境にあつた。そこに悲しい伝説を秘めた「朝日堂」と「夕日堂」がある。

◇：その昔、仏の山峠の一軒茶屋には、濡れ衣を着せられて、諸国を流浪するうち、すっかり悪事の限りを尽すようになってしまった父親と、美しい娘が住んでいた。しかし、父親が峠を越える旅人を殺害したことを知った娘は、思案の末、旅人の少年に身なりを変えて斬られ、死をもって父の非道をいさめたという。

◇：それを知った父親は、はじめて自分の非道に目ざめ、仏門に入り、苦心して石仏を刻み、朝日の当たる場所には「朝日堂」を、夕日の当たる場所には「夕日堂」を建てた。そして朝な夕なに念仏を唱えて、自分が手がけてしまった人たちの菩提をとむらつたという。

◇：この仏の山峠は、茂木町から笠間市に向かって約三十分、茨城県はすぐ鼻の先。いまは自動車が行交つて騒々しいが、その昔は淋しい峠道であつたろう。ふと目を閉じると哀れな父親の姿がまぶたに浮んだ。

◇：そして、話題の「夕日堂」は、その道路沿いにひっそりと、また、そこから少し離れた緑濃い田園の中に、これまた物静かに「夕日堂」と向かい合つて、「朝日堂」が、訪れるハイカーたちに語りかけるかのよう

に建っている。

◇：茂木町は八溝に広がる静かな町都会人にウケている廃屋利用の貸別荘が、ナウいあなたを待っている。この夏は自然にのけ込み伝説を訪ねるのも、また一興かも。



朝日堂は山ぎわにひっそりとある。



### 窓口紹介

## ご存じですか

このほかにも、県の「あすへの道をひらく」県民の集い「障害者とともに」の相談まで、この窓口は「あすへの道」の相談の第一線です。この窓口の相談件数は月に200件以上、十月の行政相談と三十件以上、二倍以上にも週間ともなるといいます。最近でははね上るといいます。最近では交通事故や、民事関係の相談がかなりふえています。

●このほかにも、県の「あすへの道」をみなさんの目で、そして耳で知っていただくための「県民ハス」も、このセンターならではの催しです。どうぞ、建設的なあなたの声を県政にお寄せ下さい。●(詳しいことは、大田原市中央一〇九九番028722-1(3)11555へ)。

### 「あすへの道をひらく」県民の集い

## 障害者とともに

「障害者の社会参加を促進するためには、どうしたらよいか」をテーマに、県民のみならず方々話し合ってください。

- ① 8月22日(土) 午後1時30分 から(栃木市民会館講堂)
- ② 8月29日(土) 午後1時30分 から(宇都宮市文化会館小ホール)
- ③ 9月5日(土) 午後1時30分 から(大田原市総合文化会館小ホール)

### グループ紹介

## ズームイン

### 合気道クラブ

宇都宮東勤労青少年ホーム

◇：ここは県都宇都宮市の東地区にある「宇都宮東勤労青少年ホーム」の一室。一日の仕事から解放された若者たちが集い、ダンスや音楽に興じている。

◇：ところがその部屋へ一歩入ると、息詰まるような殺気がした。ふと見ると、袴姿もりりしく、若い女性たちが合気道のけいこに汗を流している。



合気道練習中。この合気道は、真剣だ。しかし、真剣が全くないわけではない。暑い夏を乗り切るには、これが一番。と張り切っている。この合気道は、真剣だ。しかし、真剣が全くないわけではない。暑い夏を乗り切るには、これが一番。と張り切っている。この合気道は、真剣だ。しかし、真剣が全くないわけではない。暑い夏を乗り切るには、これが一番。と張り切っている。

●連絡先：宇都宮市今泉町3007 宇都宮東勤労青少年ホーム (0286)3155

# 尊い生命を救うために 救命救急センターを訪ねて



レポーター  
福田久子  
宇都宮市竹林町

療機関に迅速に収容できるような、医療機関を結ぶ情報システムの運用も開始され、本県の救急医療体制はこれではほぼ整ったといえそうです。

このセンターは、総経費およそ三十億円をかけ、宇都宮市中央本町にある済生会宇都宮病院の東側に新設されたもので、地上六階、地下二階で、一階が診察室と放射線室、二階が手術室で、三階が集中治療室(十二床)、また四階、五階は病室(八十八床)となっていて、

これらは済生会病院が運営を行っているそうです。



**初** 夏の明るい日差しは、みどり色に輝やいていました。私はこのほど、五月にオープンしたばかりの「栃木県救命救急センター」を訪ねて、救急医療について少しばかりですが学んでくる機会を得ました。

**救** 急医療は、医療の原点だが、いま健康な私たちでも、いつどこで病気や事故に見舞われるか—と思うと、ほんとうに心配です。こんなときに、安心してきちんとした治療が受けられるようになれば—と多くの県民が望んでいましたが、その願いに応えて、県で早くからこうした問題に取り組んでいました。

**ま** ず五十三年度からは初期診療を行う二次、さらに入院治療を行う二次の各救急医療機関の整備をすすめ、続いてこのほど三次である救急医療機関として同センターをオープンさせたということです。

また昨年は、緊急な処置を必要とする患者を、もっとも適した医療機関に迅速に収容できるような、医療機関を結ぶ情報システムの運用も開始され、本県の救急医療体制はこれではほぼ整ったといえそうです。

## こんにちは レポーター

こ

を初めて知ったのですが、実はこのセンターは、三次救急医療施設ですから、脳卒中、心筋硬塞、それに頭部外傷など、急を要する患者の救命処置が目的です。ですから、原則として、一次または二次の医療機関から転送されてきた患者を受け入れることになり、いわゆる外来診療は行っていないそうです。

**ま** た、患者の病状が安定し、転院が可能となったら、患者を転送してきた医療機関や、患者の居住地区の医療機関に転院を依頼し、いつでも新規の患者を収容できるよう万全の体制をとっているというのでした。さらに県内全域をカバーし、二十四時間体制

で、いつでも診療に応じられるようスタッフの皆さんががんばっていらっしゃいます。ほんとうにご苦労さまです。

な

お、ベットは一〇〇床、うち重症患者の集中治療を行うICU・CCUが十二床、そのほか高度救急医療にふさわしい医療設備が整備されて、その中で医師などスタッフがきびきびした態度で治療にあたっていた様子には、とても心強く感じられました。私が訪れたとき、ちょうど心臓疾患の赤ちゃんが二人、ICUで集中治療を受けていましたが、早く良くなってほしいと祈りながら病院を後にしました。



## 生活メモ

### 子供の好きな水遊び 保護者が目を光らせて安全に

夏は子供の水の事故が目だって増える時期です。

子供の水の事故は、この時期に限らず一年中起こっていますが、夏にはとくに多く、この時期の交通事故による死者を大きく上回っています。

子供は、水遊びが大好きです。その反面、水の怖さを知りません。そのため、親がちよっと目を離れたスキに、とりかえしのつかない悲しい事故に結びつくことが多いのです。

子供の水の事故は保護者の責任—と心得て、ふだんから子供によく注意するとともに、水の事故から尊い生命を守るために、次のような点に十分気をつけましょう。

- ▼子供たちだけで水泳や水遊びに行かないよう、ふだんから言いかせておきましょう。
- ▼家の近くのため池や用水池などがあって、サクとかフタがない場合は、所有者に申し

入れて、すぐ処置をしてもらいましょう。

▼危険な水辺で遊んでいる子供を見かけたら声をかけ、安全な場所まで遊ばせるようにしましょう。

▼雨降りのあとなど川や用水が増水しているときは、子供を近づけないよう特に注意しましょう。

▼自宅周辺100mくらいまでの所(幼児の活動範囲)に、危険な所がないか調べておきましょう。

▼海水浴などに行ったときは、子供が迷子にならないよう気をつけましょう。水の事故に結びつくことが多いのです。



## 県政テレビ

●毎週土曜日 午前7:00~7:15 ●8チャンネル(フジテレビ)  
●レポーター：高松しげお・森田由紀子・田中布佐子

## ウレウレ栃木

7月 ●18日…キスゲ咲く霧降高原をゆく(日光市・今市市)

●25日…ミュージックパトロール(塩谷町・宇都宮市)

8月 ●1日…健康づくりに牛乳を(市貝町)

●8日…ヤングフェスティバル(日光市)

●15日…できるかなボクらの作物—学校農園(馬頭町)

●22日…障害者年キャンペーン

—交流キャンプ(矢板市)

●29日…国際理解の高校生のつどい(那須町)

●5日…自治医大生の栗山研修(栗山村)

9月 ●12日…だいたいぶですか防災準備(今市市)

## 自然歩道

自然を歩こう

自然環境を楽しみながらその土地の地形や地質、あるいは植物などを知っていただくため整備した歩道です。

どのコースも楽に歩けますので、どうぞご家族揃って自然との対話をお楽しみ下さい。

名称	区間	距離	徒歩時間(概要)	コースの特徴等
小田代ヶ原歩道	石橋花橋—小田代ヶ原	4km	2時間	ミズナラ、カラマツの純林があり、また小田代ヶ原は多くの花を観察できる。
奥日光長距離自然歩道(部分)	湯元—刈込湖—切込湖—光徳	7km	4時間	山の中の湖を散策し、ヒカリゴケなどを見ることが出来る。
中宮祠—湯元間歩道	丸山—葛蒲が浜—戦場ヶ原—湯の湖—湯元	14km	5時間	コースは変化に富み、植種も多い。区間利用も可能。
竜王峡自然研究路	石の原—虹見滝—白岩—猿子	5.2km	2時間	溪谷沿いの歩道で奇岩が多く、地質学上、興味ある。
塩原自然研究路	新湯—富士山—大沼—塩釜	6.6km	2時間30分	高原火山台地を縦走するもので、植物・鳥類の研究に好ましい。
那須自然研究路	旭温泉入口—矢隠岩—八幡	2km	40分	那須火山の高原を縦走するもので、高酸性植物が興味ある。
奥鬼怒自然歩道	女夫淵—八丁の湯—加仁湯—日光沢—ヒナタオソロシの滝—鬼怒沼—手白沢	5.4km	5時間	鬼怒沼は標高2,000mで日本で一番高い高層温泉で大小60の沼が点在している。

※県内各市町村には、このほか数多くのハイキングコースがあります。最寄りの市町村へお問い合わせください。

